

伊達市都市計画審議会会議録

会議名称	平成28年度第3回伊達市都市計画審議会		
議 題	議事第1号 都市再生整備計画事業の事後評価について		
会議日時	平成29年2月20日(月) 19:00～20:30		
開催場所	本庁舎3階 第2・第3会議室		
出席委員等	出席者11名(欠席者1名)		
	所属部課名	建設部 都市住宅課	
公開・非公開の別	公 開	傍 聴 者	0名(うち報道機関0名)
<p>【会議の概要】</p> <p>会議次第により会議が進められ、会議の内容は次のとおり。</p> <p>1. 開会 2. 議事 3. その他 4. 閉会</p> <p>■議事第1号 都市再生整備計画事業の事後評価について</p> <p>≪質疑応答≫</p> <p>○委員：3つの指標のうち、2つについては数値を求めることができない状態ですが、この状態で評価として良いものなのでしょうか。</p> <p>●事務局：北海道や国と確認しながらこの評価の形となりました。当初、1期計画を延伸するという予定でしたが、急遽2期計画に分けることになったため、1期計画の評価としては、一部整備が完了していない状態で評価することとなります。</p> <p>○委員：今後、2期計画中にフォローアップを行うということですが、平成29年度に都市計画審議会で審議する内容はどのようになっていますか。</p> <p>●事務局：時期については明確に決まっていますが、目標が達成できているかどうかの経過報告をさせていただきます。2期計画については、最終年度の平成30年度に事後評価を行うこととなります。</p> <p>○委員：今後、改選により委員が変わる可能性があります。審議の内容としては継続していることになるので、審議会での意見がしっかり反映されるよう今後の会議のあり方も検討してもらいたい。自由通路の目標設定についてですが、利用者数が500という目標に基づき建物を設計し、建設するのでしょうか。</p> <p>●事務局：目標値は目標値で別です。この規模の自由通路を整備した場合に見込める目標値として設定しております。</p> <p>○委員：中心市街地に様々な施設が整備されてきましたが、その場所を使うのは、中心市街地の人だけではないので、遠方の人がどのような交通手段で来ているか、あるいはみんなの行きたい場所なども含め、まちの交通状況等を連携して調査する必要があると思います。</p>			

- 委員：指標について、「災害対策への満足度」は市民アンケートで確認するということがありますが、そのほかに、安全のために避難所や避難経路、非難時のボランティアも含めてお年寄りや歩きにくい人をどう救助していくかということも整理しなければならないと思います。
また、自由通路の利用者数やまちづくり会合数については、単に数が増えたからといってまちづくりに良い効果があったと判断するのは難しいと思います。
- 事務局：災害への強いまちづくりも市の中で掲げて施策に取り組んでいますので、その中で客観的に目に見える指標として災害対策への満足度としました。同じく、自由通路については、まずは鉄道で分断された地域の移動の機会を増やすことが大きな目的でもありますので客観的に目に見える指標として利用者数を設定しました。
交通体系については、企画課が中心となり、市内の路線バスの見直しを行いました。今後も乗り合いタクシーも含め、関係部署と連携し検討を進めていきたいと思っています。
- 委員：災害対策への満足度をアンケートで評価する場合は、従前値を求めたアンケートと同じ内容で行う必要があると考えますが、具体的なアンケートの方法は決まっていますのでしょうか。
- 事務局：アンケートをとることは決まっていますが、どの地区までを対象にするかや具体的な項目はまだ決めていません。
- 委員：満足度を調査するには、まず、住民の方々が自分の住んでいる場所の災害時のリスクを把握する必要があると思います。そのためには、情報を公表していくことが必要です。仮にリスクの高い場所であれば何か手当てを考えることも満足度上げるために重要。
また、不満の声は拾いやすいが、不満を表現しない非満の声も拾うことが重要だと考えます。
- 事務局：前回のアンケートと比較しながら評価のアンケートを実施したいと考えます。
- 委員：災害対策への満足度については、例えば、「自由通路ができることによって高台や避難所までに逃げる時間が何分短縮された」といった指標があるとわかりやすいのではないのでしょうか。
- 事務局：指標自体については、国に提出し計画が策定された経緯がありますので、それ自体を変更するということは困難であります。
- 委員：市民の方が納得する形でアンケートをとる必要があると思います。
- 委員：結果ありきの議論では、なかなか意見が反映しづらいと思います。議論して確認して、組み立てていく会議の進め方が重要になると思います。
- 委員：フォローアップが平成31年に予定されているので、それまでにどのように意見を取り入れていくか努力して欲しいと思います。
- 事務局：指標自体を変えることは困難ですので、いただいた意見を評価シート内の「今後のまちづくりの方策」の部分に反映していきたいと思っています。
- 委員：住民説明会については、今後も実施していくとありますが、指標の話だけでなく、伊達市の将来の姿も言葉で伝え、リスクに対するコミュニケーションを市民にしていくことが必要だと思います。

○委員：整備の具体的な内容の記載も必要ではないかと思ひます。
また、まちづくり会合数については、確かに、数だけではなく、実際の会合の内容も把握する必要があると思ひます。
まちづくりのためにどのような会が開かれているのか具体的な内容も説明していく必要があると思ひます。

●事務局：まちづくりコミュニティは基本的には自治会の会議が主になると考えており、各種団体、サークルで使用する会合数も含まれています。

□結果：今回の本審議会での意見を踏まえ、新たな事後評価案を作成し、原案として公表する。また、次回の審議会でも引き続き審議を行い、第三者機関としての意見を集約する。

■その他

○委員：前回の都市計画審議会でも、伊達市火葬場の区域についての説明がありましたが、区域の使い方や都市計画決定が必要となる建物の面積の根拠やそもそもの施設としての使われ方の説明が不十分だったと思ひます。時間がなく、スケジュールが厳しいのはありますが、市役所だけでどんどん進めてしまうのではなく、もっと前から都市計画審議会の場で議論する必要があるのではないかと思ひます。

■閉会